

【団体名】 エコネットチェーンソーズ

【事業名】 森の恵み(間伐材の活用)

安城七夕竹あかり回廊七夕神社竹灯籠に参加

【事業実施期間】 令和元年（2019 年）7 月 1 日~令和元年（2019 年）8 月 7 日

【事業実施場所】

○愛知県作手「間伐の森」

森の健康診断などを実施し、森林土壌の水涵養機能などを学ぶ

間伐材を利用した「鹿」などのオブジェ作成や、木・竹製「ろうそく」防風筒作成・
空き缶細工

○安城七夕神社

竹あかり回廊 03 安城七夕神社会場竹灯籠に参加

安城七夕神社参道に作品の展示

○安城七夕神社など

展示物の放去等の後片付

【事業内容】

当初は、9 月下旬に安城デンパークでの「仲秋のあかり祭り」へ作品を展示する計画・立案していたが、その安城デンパークが「一般からの展示募集はしない」旨の方針を打ち出した。このことにより、「森の恵み(間伐材の活用)」展示・発表計画が「とん挫」するかに思われたが、安城商工会議所に「安城七夕」の竹あかり回廊への参加を打診したところ、「快諾」が得られ「とん挫」せずに済んだ。「森の恵み」展示・発表会が、初期の計画から約 2 ヶ月早まったことにより、展示物作成ができなかったことは、悔やまれる。

○間伐材の調達

「間伐の森」での間伐作業は、今年度は 5 月 11 日より開始したが、間伐材を林道まで搬出する作業路の確保と整備に、思いの外時間がかかった。このために鹿などのオブジェを作成するための「スギ・ヒノキ」材が確保できたのは 7 月下旬になった。鹿のオブジェの展示は、材料確保と製作に手間取り 1 体にとどまった。

○展示物製作活動

安城七夕「竹あかり回廊」、安城七夕神社「竹灯籠」での展示日時が令和元年（2019 年）8 日 3 日 19 時~21 時、翌 8 月 4 日 19 時~20 時 30 分と決められ、この展示準備を令和元年（2019 年）8 月 3 日 10 時から行った。

・展示物

空き缶・針金などによる風車様の文字飾り

通路明示用の風防付ろうそく台

願事を書いた「紙コップ」展示台

竹灯籠

鹿のオブジェ

出展者名版

などを、「間伐の森」にて作成し、安城七夕神社に搬送した。

○森の健康診断~今年第1回目のイベントを7月13日土曜日に開催~

この「間伐の森」は、年に数回イベントを開催し、間伐の重要性や森林が持つ水涵養機能や森林浴機能など、市民の方々に森と親しんでいただく為の活動を実施しています。

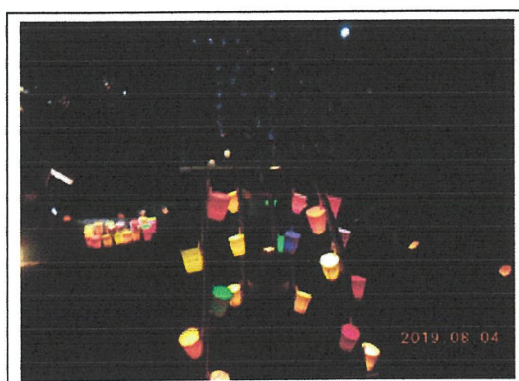
今年度は、矢作川研究所の洲崎博士をお招きして、一般市民にも参加を呼びかけ28名の参加を得て、「森林の健康診断」のひとつである「森林土壌の水の浸透調査」を実施し、水涵養機能を学んだ。また、恒例になっている間伐度合いによる「太陽光の照射状況変化」や下層植物の「植生変化」や、間伐の有無による生産木の生長度の調査も、あわせ実施し、経年変化を調査・記録している。

立派な鹿になりました



蠟燭の光は

ことのほか、幻想的でした



【成果・課題】

当初は、安城デンパークの「仲秋のあかり祭り」に参加を定していた。昨年のデンパークでの「祭り」への出展・出品者が極端に少なく、今年も出展参加者が少ないのではと危惧していた。安城デンパーク側は昨年の出展・出品者の状況から、一般には展示をさせない方針を打ち出したことで、当方のこれまでの準備が「路頭に迷う」ところであった。それで、なんとか「間伐の重要性を訴え、間伐材を利用」できる場所をさがしたところ、安城七夕での「竹あかり回廊」の安城七夕神社での「竹灯籠」での展示が可能になり、救われる思いであった。

当方が展示した場所は、境内の中ほどにあったものの、来訪者がひきもきらず、来訪した人々から空き缶で「令和」を著した飾り物や、ろうそくの火でほのかに照らしたされた鹿や、あるいは紙コップに書いた願い事に感嘆を、述べていただきました。来年も是非とも参加させていただきたいと思います。

反省事項として

○準備期間が短縮され、鹿のオブジェの作成に手間がかかり、鹿が集うような状況を作りたかったが、時間がなく間にあわなかった。

○安城七夕神社には、想像をはるかに超えた多数の参拝者や見学者の方々が来訪された。この機会に所属団体である「NPO法人エコネットあんじょう」が実施する「水の重要性」を訴え、「根羽村水源の森トラスト」運動のパンフレットなどを配布すれば、宣伝効果があったと思われる。